

医療マネジメント講座

先進的な大学院の講義を皆様に公開します。ケース教材を使ったケーススタディです。



平成21年 **12月5日** (土)

会場／岐阜大学医学部1階大会議室

時間／14:00～16:00 (13:00開場)

講師／東京医科歯科大学大学院 (医療経済学分野)

川渕 孝一 教授 (「病院の品格」の著者として有名です。)

講義／**感染症対策の事例から医療機関の危機管理について学ぶ**

ケース教材「中日友好病院におけるSARS危機への対応」

※ケース教材を事前にお届けしますので、裏面に記入しFAXでお申込みください。

主催／岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科

参加費無料
定員100名

申込みメ切:11月末日

※定員になり次第み切らせて頂きます



GIFU UNIVERSITY

医療マネジメント講座

病院の危機管理について学ぶ

(ケース教材「中日友好病院におけるSARS危機への対応」)

新型インフルエンザが世界的に拡大しています。人類が経験したことのない新しいウイルスが猛威を振っているのです。

現代社会は、①ヒトや食品などの世界規模の移動、②開発による環境の変化、③保健医療サービスの高度化などの原因により、かつては予想もなかった感染症が公衆衛生上の問題となっています。たとえば、熱帯雨林の開発と関係深いと考えられるエボラ出血熱や、ニパウイルス感染症、屋外レジャーの普及で都会の人もかかるようになったツツガムシ病、温泉やビルのクーリングタワーの水で集団感染するレジオネラ肺炎などがあります。また、抗生物質の多用で出現したMRSAも深刻な問題です。

人類がかつて経験したことのない感染症、即ち「最近30年間に新たに発見された感染病原体あるいはかつては不明であった病原体により惹起され、地域的あるいは国際的に公衆衛生上の問題となっている新感染症」を新興感染症と言います。1996年に全国的に猛威を振った腸管出血性大腸菌感染症(O-157)や2002年11月に中国広東省で突然発生したSARS(重症急性呼吸器症候群)も新興感染症です。

これら様々な感染症の出現を踏まえ、わが国の病院はどうマネジメントすればよいでしょうか。また、こうした得体の知れないものが増える中で医療連携は本当に機能するのでしょうか。本講座では、中日友好病院がSARSにどう対応したかをケースとして取り上げ、わが国の医療機関の危機管理について学習します。

参加される方は、「中日友好病院におけるSARS危機への対応」のケースを読んで、危機管理に関する次の課題を考えてください。

「新型インフルエンザの本格的な拡がりが見込まれる中で、

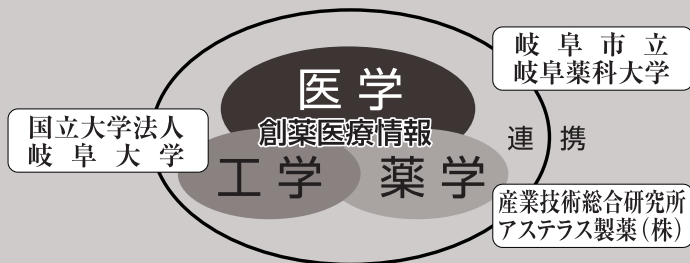
- ①貴院でどこまで対応できるか。 ②どの医療機関とどう連携するか。」

■ケース教材は事前に郵送配布します。教材を熟読してから受講して下さい。



東京医科歯科大学大学院教授
講師 川渕 孝一 先生

岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科



本研究科は国際的に水準の高い創薬医療情報に関する教育・研究の展開、多方面の学術情報の蓄積と発信をめざしています。特に高度専門職業人、技術者、研究者の育成と同時に、社会人のリカレント教育としての責務も担っています。



《FAXでお申し込みください》

セミナー参加申込書

※ご記入いただいた個人情報は、主催者において本企画に関わる事務処理以外には使用いたしません。 **FAX.058-293-3273**

フリガナ	〒
ご芳名	ご連絡先 郵送先を記入下さい
TEL () - () -	E-mail @
FAX () - () -	

お申し込み方法

申込書に必要事項をご記入のうえ、上記FAX番号(岐阜大学 連合創薬係)まで送信ください。

お問い合わせ先

◎岐阜大学 連合創薬係(担当 阪野・浅野)

☎ 058-293-3272

●事前の申し込みがない方でも、席に余裕がある限り、当日参加を歓迎します。遠慮なくおこしください。